

「全町教育」でまちづくり

しんとく全町教育

「全町教育」というと、堅いイメージがあると思います。ましてや「教育」となれば、「私は関係ない」と思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実はそんな難しいものではありません。日頃から皆さんが意識せずに行っていることも、もしかすると全町教育の一つかもしれません。

まずは、避けては通れない大事な話から。

全町教育の目的

子どもの「真の学力」の向上

「真の学力」とはテストなどの点数で測れる学力のことではありません。

新得町では以下の三つを「真の学力」ととらえ、学校・家庭・地域が共働してその育成に努めていきます。

- 学び続ける意欲
- 課題を解決する力
- 様々な人とかかわる力

大人の自分育て

いわゆる「生涯学習活動」の活性化であり、大人が子どもの教育活動に参加することで、自己の知識や技術を生かすとともに、子どもと共に学び育ち合うということです。

「真の学力」は、学校だけで育まれるものではなく、家庭における教育はもちろん、多くの人とのかかわりや、様々な経験を重ねていく中で育まれていきます。

そこで、次の点について重点的に取り組みます。



全町教育の重点活動

人材活用

地域住民や企業、NPOなど様々な知識や技能をもった地域人材が学校教育活動にかかわることで、学校の中だけでは学ぶことのできない幅広い知識や能力を育成することができます。

体験活動

町内の豊かな自然環境を活かした野外活動や、社会資源を活用したボランティア活動、職場体験など、様々な体験活動に取り組みます。

子どもを育てる地域の和、地域を育てる子どもの笑顔

町民全員が教育の当事者です

昔の子どもたちは、学校や家庭だけではなく、地域のおじさん・おばさんからも様々な知恵を授かりましたが、悪いことをすれば赤の他人からも普通に叱られました。

しかし、今の社会では、他人の子どもがルールやマナーを守っていなくても見て見ぬふりをする大人が増えています。都市部などでは、子どもを注意すると、逆に保護者からクレームがくるような、おかしな時代になってきています。

子どもの教育は、家庭内や保護者が一緒にいるときは、もちろん保護者の責任です。また、学校教育の場では学校の責任。しかし、家庭や学校を離れた地域の中での子どもの教育は、地域の大人の責任です。

私たち町民は、自分の子どもだけではなく、地域の子どもたちを育てる責任があることを今一度自覚しなければなりません。

私たちは何をしたらいいの？

学校の役割

- 地域の人材を活用した「生きた授業」の展開
- 体験的な学習の推進
- 学校行事等の地域への公開
- 保護者や地域住民との学校経営等に関するビジョンの共有

ほんの一例です

家庭(保護者)の役割

- 子どもの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立
- 社会のルールやマナーの習熟に向けた指導
- 授業参観や学校行事への参加
- P T A活動への参加・参画
- 学校教育活動への参加・協力（学校支援ボランティア）
- 地域における社会教育事業への参加・協力

地域の役割

- 地域における“あいさつ”や“声掛け”（子どもに対してはもちろん、大人同士も）
- 町内会における諸行事開催と、家族ぐるみでの参加
- 夏休み中に町内会で開催するラジオ体操への大人の参加
- 学校教育活動への参加・協力（学校支援ボランティア）
- 学校行事の参観（地域参観日・運動会・学習発表会など）
- 企業等における職場見学・体験等の受け入れ
- 企業等における従業員の学校行事への参加促進など子育て環境の充実

子どもを育てる地域の和、地域を育てる子どもの笑顔

子どもと関わるだけじゃない

ここまでの説明では、“全町教育は子どもに対するもの”と思われがちですが、実は子どもと関わるだけが全町教育ではありません。

目的にもある通り、大人も共に学び育ちあおうというものです。

きっかけは、子どもと関わる活動かもしれませんが、そこで新たな人との関係が築きあげられることによって、新たな活動を創り出すことにもつながります。

そうやって、人的なネットワークが広がり、困ったことを相談したら、誰かが解決の糸口を見つけてくれて助け合い、支え合える。そういう町を目指しています。

全町教育は、子どもの「真の学力」の向上を目指すとともに、子どもの育ちを軸に据え、そこに集う町民一人一人が互いに学び合い、つながり合うことで、地域コミュニティの活性化を目指していく運動です。

そういった意味から言えば、**全町教育は“人づくり”であり、“学びをとおした町づくり”**であると言えます。